

議事要旨

日本学術会議 物理学委員会 天文学・宇宙物理学分科会（第25期・第8回）

日時：2023年1月27日（金）13:00-15:20

場所：オンライン会議（新型コロナウイルス感染症対策のため、ZOOM ビデオ会議システムを使用）

出席者：梶田 隆章、田近 英一、山崎 典子、相川 祐理、浅井 歩、生田 ちさと、今田 晋亮、奥村 幸子、坂井 南美、佐々木 晶、新永 浩子、須藤 靖、住 貴宏、田代 信、千葉 柁司、常田 佐久、中畑 雅行、林 正彦、藤井 良一、藤澤 健太、観山 正見、村山 斉、山田 亨、渡部 潤一

欠席：深川 美里

オブザーバー：大栗博司(東京大学 Kavli IPMU 所長)、山本智(日本天文学会会長)、藤澤健太(宇電懇委員長)、大朝由美子(光赤天連運営委員長)、田島宏康(CRC 実行委員長)、市來淨與(理論懇運営委員長)、今田晋亮(太陽研連会長)、山岡均(国立天文台)、富田晃彦(和歌山大学)、清水敏文(宇宙科学研究所)

(順不同、敬称略)

資料

資料天宇1：機関報告(国立天文台)

資料天宇1a：機関報告(国立天文台)

資料天宇2：機関報告(国立天文台)

資料天宇3：総会報告

資料天宇4：天文学・宇宙物理学の長期計画 v0.3

林委員長が議長を務めて司会進行した。以下、(Q) 質問 (A) 回答 (C) コメントをあらわす。また括弧〔〕は議事録作成者による補足を表す。

(1) 共同利用関連機関等からの報告

1. 東京大学 Kavli IPMU (大栗所長)

Kavli IPMU の中に Center for Data Driven Discovery (CD3) を 2023 年 4 月 1 日付で設置することが認められたことの報告があった。来年観測を開始する予定の PFS、ISAS/JAXA と協力している LiteBIRD 等のビッグデータから大きな発見を目指すものであり、データサイエンスと天文学の分野融合としても位置付けたいとしている。ジア・リュウ准教授を所長とする予定で、テニュアトラック教員を2

名公募している。このほか、HSC の観測、PFS の準備状況、LiteBIRD に関する JAXA/ISAS との連携について報告があった。

2. 国立天文台（常田台長）【資料天宇 1、1a、2：機関報告(国立天文台)】

(1) TMT の状況に関する報告があった。建設地に関して 5 項目に分けて説明があり、現地建設再開に向けた動きが加速していること等の報告がなされた。

(2) 国立天文台の 2023 年度予算の見通しについて報告があった。運営費交付金は、2022 年度は電気料金の高騰への対応が課題だったこと、2023 年度も電気料金の高騰を織り込んで予算編成を行っていることが説明された。

Q（田代）：〔TMT 建設地の地元住民のニーズを踏まえたプログラムを推進している〕特任専門員について教えてほしい。

A（常田）：ハワイ大学で天文学の研究で学位を取得して、現在は教育・アウトリーチで活躍している方で、TIO の幹部付の職員でもあり、NSF への概算要求書のライターを務めることもあるなど、政策に深く通じて重要な貢献をされている。

3. 東京大学 宇宙線研究所（中畑所長）

(1) 令和 5 年度の予算の見通しについて。マルチメッセンジャー天文学推進のための組織整備、宇宙線国際研究拠点、CTA、大型プロジェクト（スーパーカミオカンデ、KAGRA、ハイパーカミオカンデ(HK)）に関する予算状況の説明があった。

(2) 大規模フロンティア事業について報告があった。

(3) その他、各プロジェクトについて簡単に報告がなされた。KAGRA の O4 は 2023 年の春開始予定で準備を進めていることが報告された。

4. 宇宙科学研究所（國中所長の代理で山崎教授、山田教授が報告）

公募型小型衛星計画は選定中である。XRISM 衛星は来年度中（2023 年）打ち上げに向けて準備が進行中で、LiteBIRD 計画はミッション定義審査が今年度から来年度にかけて実施予定であることが報告された。

Q（林）：XRISM の打ち上げ時期は決まったか。

A（山田）：未定である。

（参加者の都合により、(2) の総会報告の前に IAU 分科会が開催された）

(2) 総会報告（山崎会員）【資料天宇 3：総会報告】

1. 未来の学術振興構想

194 件の提案があった。評価小委員会を設置して、緩やかな絞り込みとグループ化が進められている。

2. 内閣府「日本学術会議の在り方についての方針」に関する総会

〔これまで学術会議の在り方について政府と学術会議の間で議論が行われており、政府から「方針」が出される予定とされていた。〕総会が 2022 年 12 月 8 日

(1日目)と12月21日(2日目)に開催された。12月6日に大臣コメントとともに内閣府から「日本学術会議の在り方についての方針」が学術会議に送付されたので、12月8日の総会ではこれについて議論が行われた。しかし内閣府総合政策推進室室長による3～4時間の説明と質疑があったものの、具体的な内容が示されなかった。12月21日の総会では内閣府から出された「具体化検討案」および「ご意見ご質問への回答」、また学術会議の梶田会長による「懸念事項」をふまえて議論が行われた。この時もやはり具体的な内容が明らかにされないまま(学術会議法の)改正法案が作られることに対して学術会議として懸念が表明された。これらの議論を踏まえて、学術会議は声明『内閣府「日本学術会議の在り方についての方針」(令和4年12月6日)について再考を求めます』を出す決議をした。

問題点として次のことが示された。まず、説明のために出された文書が少なすぎて曖昧であることが問題視されている。例えば、会員選考について内閣府は第三者委員会を設置して選考を行うよう法改正をする方針だが、説明文書がごくわずかであり、また内容の説明があいまいである。質疑でも具体的な内容が示されなかった。この状態で議論をしたとすることには、学術会議としては同意できない。また、政府の方針として「政府との問題意識・時間軸の共有」が示されているが、学術の立場としては独立して判断を行わねばならない。改正法案が次期改選(本年10月)に間に合わない可能性がある。法改正が間に合うかどうか不明なので、現行法で会員選考の準備を進めている。

C(観山):文科省が作成するロードマップについて、文科省が直接大型プロジェクトを公募する予定であり、学術会議はこれに関与できないこととなった。〔未来の学術振興構想はロードマップに関与しない〕

C(山本):日本天文学会長として、他の関連学会とともに、政府の方針に懸念を表明し、再考を求める共同声明を出すことを予定している。学術会議が独立性を持つべきなのは、よりよい国民生活のためだからという趣旨である。

C(山本):観山さんのコメントにあった文科省のフロンティア事業について、コミュニティからの支援を求めることになっている。コミュニティは推薦をすることになるので準備が必要。

C(観山):順位を付けるということではないので、できるだけ積極的に推薦をするのが良いだろう。

C(山本):文科省ではコミュニティの推薦を重視している。

Q(山田):これは学術の全体的なロードマップを対象とするものか。

A(山本):これはフロンティア事業に即したものである。

Q(生田):法案提出前に学術会議として記者会見をして意見表明をする予定はあるか?メディアが取り上げないこともあるし、偏った意見が拡散されていることもある。例えば、外国のメディア向けに会見をするのも良いのではないか。

A (山崎) : 定例会の会見はやっている。

A (梶田) 昨日 [1月26日] 記者会見をして、政府方針に対して「再考」を求めるとしたこと、学協会に説明会を開くこと、またおよそ 50 の学協会等から「再考」に賛意が示されていることなどを伝えた。外国の報道機関にも出すことを検討している。

C (渡部) : 多くの学協会が結束して意見を表明することは重要である。メディアを通じて海外へ報告するのも重要である。

C (山本) : 共同会長声明について日本天文学会はプレスリリースを予定している。今回は日本語だが、英語のリリースも検討する。

(3) 次期会員・連携会員の推薦について (林、山崎)

2022 年末に懇談会を開催し、天文学会からの推薦を踏まえ、分野・地域・ジェンダーバランスを考慮して、各方面の意見を聞いたうえで、会員候補者 2 名、新規の連携会員候補者 4 名の推薦書類を提出した。

(4) 長期計画冊子の進捗状況 (林) 【資料天宇 4 : 天文学・宇宙物理学の長期計画 v0.3】

資料に基づいて進行状況が報告された。今後の予定は、3 月末に最終版を確定し、メール審議で承認を得る、その後は上部委員会へ報告・提出して、査読を経て、公表となる予定である。

Q (観山) : 理論・計算機科学はあるか。

A (林) : 10. コンピュータ・シミュレーションに入っている。

Q (村山) : 大規模データ解析とコンピュータの関連も入れると良いのではないか。

A (林) : 大規模データ解析とデータ駆動型サイエンスも追加するので村山さんに執筆をお願いしたい。

C (村山) : 了解した。

(5) その他

1. (林) 日本天文学会春季年会の前後に学術会議の報告をする予定である。
2. (千葉) 物理教育分科会において 1 月 11 日に公開シンポジウム「物理学におけるジェンダーギャップの現状と対策・物理教育の役割」を開催した。新永さんに講演をしていただいた。
3. (大朝) 未来の学術振興構想についていま何かすることはあるか。(山崎) とくはない。上部の小委員会で検討が行われている。(中畑) 物理から何名がこの小委員会に入ったのか？(山崎) 6 名である。

(以上)